

# Shall We Play Tennis? 0.5面コートとパダル専用コート

図1 県球場（テニスコート）の施設数推移  
 【体育・スポーツ施設現況調査】（昭和44年～平成27年）をもとに編集部作成。  
 施設数はコート面数を表すものではない（屋内球場の場合は平成2年から、民間施設の平成2年データはなし、合計および総数の数値には大学と国庫の施設数が含まれる）

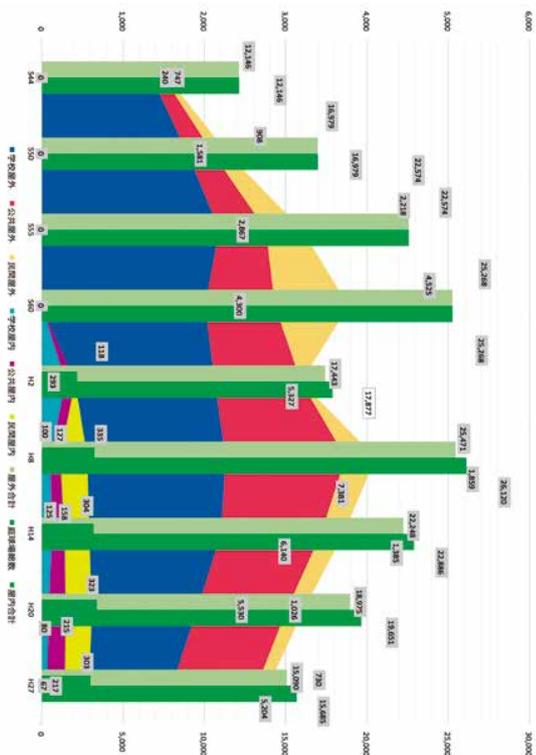


図2-a H27 屋内施設場の設置者別コート面数 内訳 (n=1,592)

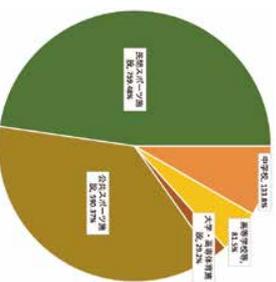


図2-b H27 屋外施設場の設置者別コート面数 内訳 (n=58,300)

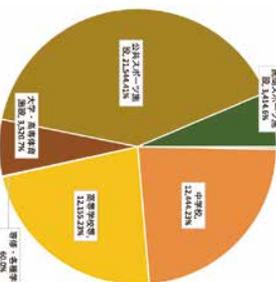


表1 施設当たりのコート面数

年	H26		H27	
	合計施設数	施設当たりの平均(個)	合計施設数	施設当たりの平均(個)
学校内外	234	90	233	214
公園内	590	215	270	500
公園外	927	320	287	272
民間施設	1,789	678	2,082	729
屋外合計	27,737	9,542	24,822	303
学校内外	21,910	6,590	3,98	695
公園内	4,381	1,026	3,414	288
公園外	4,381	1,026	3,414	3,00
民間施設	57,978	18,975	3,06	4,14
屋外合計	57,978	18,975	3,06	4,68
屋外合計	57,978	18,975	3,06	4,68

掲載部はとめ

## 特集

# 初心者に優しいテニスコート

## 0.5面コートとパダル専用コート 小空間の活用が生む 「機会の創出→初心者定着→実施率アップ」の好循環

8月にオープンした民間の複合スポーツ施設「スポーツ東大井町」にも2面のパダルコートが整備された。

スポーツをたくも場所が身近でない。スポーツを始めたくもスポーツ施設は公共も民間も敷居が高くて――。

わが国のスポーツ施設は全般的に減少傾向にある。かたや、国内の市民ランナー人口は200万人とされ、スポーツ実施率の向上に寄与している。だが、その中には、本当に取り組みたいスポーツが別にあるのに、「する」場所の問題で自当でのスポーツを断念、ひとまずランニングで運動を下げているという人もいるのでは。本稿では、テニスコート施設数の推移を踏まえ、コートレイアウトを工夫したことで初心者の定着を実現してきた民間テニススクールの取組を紹介するとともに、公共テニス場に取り入れられないか、ストック適正化を進める際に役立てられないか検討する。後半では、「スベイン発祥」で、サッカーのインiesta選手よりも先に日本に上陸したテニス似のスポーツ「パダル」の特長とコート作りを通じ、欧米における生涯スポーツの楽しみ方を紹介する。

文＝編集部 木村啓司

